

きっと飾りたくなる未来へ。

will

KYOTO
UNIVERSITY



will

き っ と 飾 り た く な る 未 来 へ 。

京 都 大 学 で、学 び、研 究 し た こ と は、
あ な た の 未 来 を よ り 輝 く も の へ と 導 き ま す。
卒 業 し、様 々 な 分 野 で 活 躍 す る
先 輩 の 姿 は、近 い 未 来 の あ な た の 姿。
あ な た も 京 都 大 学 で、自 ら を
飾 り た く な る 未 来 を め ざ し ま せ ん か。

be..

稲葉 カヨ

INABA Kayo

男女共同参画・国際・広報担当理事、副学長、男女共同参画推進センター長

本学を卒業した女性たちの中にはチャンスを掴み、また今もチャンスを
得るために努力し続けている人が大勢います。彼女たちがどんな風に社
会へと飛び立ち、世の中で活躍をしているのかを知り、ロールモデルとし
ていただくために本誌を作成しました。

チャンスというものは偶然訪れるものではなく、自分自身を見つめつつ、
能力を最大限発揮できるように努力をした結果、捕まえられるものです。そ
のために、男女を問わず若い人たちは、自らを強く鍛えるということを常日
頃から心がけて欲しいと思っています。失敗は失敗ではありません。あくま
でも強くなるための一つの経験です。その都度、自分の中で原因を咀嚼し
理解・改善することで打たれ強くなり、次に繋げることができるのだと思ひ
ます。壁にぶつかっても諦めないで、しなやかに、たおやかに、折れないよ
うに強く生きてください。やがて来るチャンスを確実に掴むために。





北野 正雄

KITANO Masao

教育・情報・評価担当理事、副学長

京都大学は近年、歩むべき指針として「WINDOW構想」を掲げています。目指す六つの目標から頭文字をとったものですが、その「W」の一つがWomen and the World——つまり女子学生や女性研究者の支援です。現状はまだ学生に占める女性の比率は2割、教員においてはわずかに1割にとどまっていますが、彼女たちを間近で見ているとパフォーマンスが非常に高く、社会に出ても自然な形で自身の役割を果たしている人が多いと感じています。

大学に入ることはゴールではありません。大切なのは大学で何を勉強したいのかという志であり、その先に続く未来のビジョンです。志がなければ、飛び込んだ先で立ち行かなくなる場合が往々にしてあります。ぜひ自らが実現したいことのイメージを持って、大学や学部学科、そして将来を選んでください。本学は志ある女性に対し、窓を開け放っています。本誌に登場する先輩の姿が、その選択の参考になることを願っています。



PERSON-01

近松 智子 CHIKAMATSU Tomoko

経済学部経営学科(当時)卒業
ドイツ International School of Düsseldorf e.V.出身
有限責任監査法人トーマツ

自由な学風で学んだことは 自分で決めることの大切さ

国際バカロレアで育んだ、考える力

父の仕事の都合で、中学2年生の冬に家族でドイツのデュッセルドルフに行くことになりました。中学校は、日本人学校で義務教育を受けましたが、高校はインターナショナルスクールに進学しました。デュッセルドルフは古くから日本企業の進出が盛んなため、このインターナショナルスクールには日本人が多く在籍していますが、50以上の国や地域をルーツとする子どもたちも通っています。この学校

では国際的な教育プログラムである「国際バカロレア」を採用していました。国際バカロレアの大きな特徴は、最終試験だけで評価するのではなく、2年間のカリキュラムの下、選択した6科目の成績に加え、

期間中に取り組んだスポーツやボランティアなどの活動や、小論文やディスカッションの成果を総合評価する点です。



私にとって最も衝撃的だったのは、それまで大嫌いだった数学が「面白い!」と思えたことです。国際バカロレアのカリキュラムの下で学んだ数学は、ただ計算問題を解くだけでなく、例えば「ある数式が実生活でどのように役に立っているか」について論文を書くような授業で、ただ公式を覚えるだけでなく、それを使って「考える」という力が身についたように感じます。

チャンス到来! 私でも京大を受けられるかも!?

国際バカロレアでは、カリキュラムを修了し試験を受けると、国際的な大学入学資格である国際バカロレア資格が取得でき、世界中の大学に進学することができます。私の場合、海外で具体的に学びたいことがなく、また父の帰国が決まっていたので、帰国して日本の大学に進学することにしました。大学について調べていた時に、京大は当時日本では知名度が低かった国際バカロレアを評価している大学で、帰国子女枠で受験が可能であることを知りました。もし日本の高校に進学していたら……私には京大は難しすぎてチャレンジすらしらないような、雲の上の大学だったと思います。でも、帰国子女枠では、高校の成績に加えて小論文と面接だけで受験がで

わたしの

こうやって勉強しました。

学	生
時	代

国際バカロレアのカリキュラムでは、科目ごとに細かく小論文を書いて提出しなければいけません。例えば、音楽の授業では、その場で初めて聴く曲に対してその特徴や時代背景を分析する論文を書いたことがあります。また、日本語で書くとき8千字を超えるような論文を作成することもありました。英語でのディスカッションの時間

もあり、文化的背景が全く異なる相手にどのようにして自分の意見を伝えるかを常に考えていました。論理的思考、説明する力、読解能力や文章を書く力は、高校時代の日々の積み重ねによって鍛えられたと思っています。物事を多角的に見て自分で考える力は、受験のみならず今後生きていく上でも役に立つと思います。

きるため、「これはチャンスだ! 挑戦してみよう!」と思って受験することになりました。帰国してから半年ほどは予備校の帰国子女プログラムに通い、受験に必要な小論文の書き方を学びました。念願叶って京大の経済学部で合格した時は本当に嬉しかったです。

講義で出会った簿記に魅了! 3回生で公認会計士試験に合格!

経済学部は帰国子女枠で受けられた学部だったこともありましたが、資格がとれる学部であったことも志望理由の一つでした。私の両親は共働きで、母が働いている姿を見ながら育ったので、将来自分が社会に出て仕事をする時は結婚や出産後も自分のペースで働きたい! と思っていました。そのためには大学で何らかの資格を取得する必要があると考えました。今もあるかどうかわかりませんが、当時は1回生の時に経済学部と法学部生を対象とした、大原簿記法律専門学校による簿記3・2級の授業を、大学の講義として受講できました。大学の講義でテキストが手に入って、資格も単位も取得出来るなんて、「ラッキー」と思って受講したら、これが意外と面白い! 自分に合っている科目だと思ったんです。そして受講を続けるうち、ビジネスの基礎となる会計の面白さを知り、会計の専門家である公認会計士の資格を取ろうと心に決めました。そこで、大学と予備校のダブルスクールをしながら公認会計士を目指して勉強しました。公認会計士試験の勉強にこれだけ打ち込めたのは、やりたいことをやらせてくれる『自由な学風』のおかげだと思います。

家庭と仕事を両立しながら、監査のプロへ

3回生の夏に公認会計士試験に合格し、すぐに大手監査法人の一つである有限責任監査法人トーマツで非常勤職員として働き始めました。大学卒業後もそのまま正社員として入社し、日本企業の監査に従事しています。この仕事では、入社時から一人のプロフェッショナルとして、判断することが求められますが、京大の自由な学風のもとで身につけた、自分で考えて決める力が役に立ちました。現在、私は育児休暇を取得していますが、休職前はシニアスタッフという職位で、現場責任者として業務に従事しており、ますます、自分で責任を持つ、自分で考えて行動することの大切さを強く感じました。将来的に仕事に復帰する際には、家庭と仕事の両立を図りながら、公認会計士としてキャリアアップを重ねていきたいと考えています。

出勤日のある1日

- 朝** 5時半起床。朝食・お弁当づくり。子どもが起きてきたら一緒に朝食。8時に子どもたちを送り9時出社
- 昼** 事務所orクライアント先。
1年の半分近くはクライアント先に出張しています
- 夜** 16時退社。17時に子どもたちのお迎え、帰宅。
夕食のあとは子どもと遊んだり家事をしたり。23時就寝

上司・同僚から一言

近松さんは、いつもきっちりと手際よく仕事をしてくれるので頼りにしています。いつ戻ってきますか? 復職後にまた、一緒に働けるのを楽しんでいます。子育て頑張ってください!



将来の夢

仕事と家庭の両立

家庭も仕事も両方、私の人生に必要であり、大切なものです。

今は3才と1才の男の子の育児中。ふたりとも手がかかるやんちゃ盛りで毎日大変なため育児をメインに置っていますが、今後もう少し手が離れたら、まずはキャリアが途切れないレベルで仕事に復帰し、その時々自分がやりたいことに合わせて柔軟に、仕事の占める割合を変えていければいいなと思っています。



高校生のみなさんへ。

message to you!

大学生になると、やりたいことを自分で決められるようになります。高校生までは育ってきた環境によってある程度選択肢が限られていたり、何かを決める機会も少ないですが、大学生になってアルバイトをしたり、新たな人と会うことで自分の選択肢は確実に広がります。自分で決断する力も育つので、あとはもう自分次第。それが楽しいですよ!

高校時代のある1日

- 朝** 7時頃登校
- 昼** 授業や部活に打ち込む毎日
16時半頃に下校
- 夜** 18時頃帰宅。夕食の後は
課題などに取り組み24時に就寝





PERSON-02

木村 遥奈 KIMURA Haruna

総合人間学部 認知情報学系 卒業
大阪府立天王寺高等学校 出身
株式会社新興出版社啓林館

数学に苦勞した私が今、 算数の教科書を作っています

数学が苦手なのに高校で理数科に!?

中学の頃の好きな科目は国語。特に古文が好きで、『源氏物語』のあの雅やかな世界に憧れていました。それなのに高校で理数科(現在は文理学科)を選んだのは、「行くなら上を目指したい!」と思ったからです。理系も比較的好きだったので、特進コースのつもりで入りました。でも、入学してから愕然としました。周りは東大や京大を目指す子ばかりで、同級生のレベルが高すぎて、もう授業についていくのに必死でした。数学が苦手だということに、入学してから気づいたのです。だから「みんな理数が得意なら私は国語を頑張ろう!」と逆に奮起しました。

また、中学から始めたバリトンサックスが吹きたくて、吹奏楽部の活動に打ち込んだこともいい思い出です。とにかく楽しくて、毎日練習していました。勉強と部活との両立が出来る器用な子いますが、私はそれが出来ないタイプです。勉強は学校の授業のみで完結し、成績はあまり気にせず、部活がある時は部活に集中していました。昔から一つのこと



期テストも入試も、直前になってから集中して勉強していました。

私も京大でジャズをやりたい! それが私の目標

京大を意識したきっかけは、中学3年生の時に塾の先生から「京大は面白いし、京都は楽しい!」と言われたからです。それに高校時代入っていた社会人と混合のジャズバンドにも京大のジャズサークル出身の方がいらして、大学の話を聞いてすごく面白く感じました。それと同時に「私も京大でジャズをやりたい!」と、強く思いました。楽器の面白さや、出会った人の影響は大きいと思います。

志望学部は、高校1年生の時に行った京大のオープンキャンパスで決めました。「人がどういうメカニズムでものを見ているのか」などを研究する視覚科学研究所の紹介文を読み、その研究内容にとっても興味が湧きました。その研究室があるのが、総合人間学部でした。部活三昧の生活だったので、本格的に受験勉強を始めたのは高校3年生からです。学校の教育方針が授業重視だったので塾には通わず、夏期や冬期の講習だけ受講しました。受験勉強を始めるまで数学と物理は本

わたしの

こうやって勉強していました。

学	生
時	代

勉強場所は、高校の自習室や行き帰りの電車の中、直前期だけ塾の自習室を使用していました。私は受験勉強のスタートが遅かったので、基礎はしっかり勉強している内に入試を迎えました。高校の職員室に質問に行く回数は、私が一番多かったと思います。1つわからないところがあれば、理解できるまで何度も聞きに行くことを入試ギリギリまで続け

ていました。特に、苦手科目だった数学と物理化学には一番時間を割きました。得意科目だった国語(古文)でも、基本である文法や単語が分からないと問題が解けないので、自分で決めた文法問題集と単語帳それぞれ1冊を徹底的にやりこみました。基礎中の基礎を何度も復習していたことが、結果的によかったように思います。

当に苦手で、特に物理は春の校内模試でまさかの0点! 総合人間学部は理系入試でも文系科目の配点も多いため、得意だった国語と英語で何とか挽回を図ろうと思いました。

勉強もサークルも満喫した大学時代

大学生活がスタートしてからは、念願のジャズサークルに入りました。1人暮らしを始めた、巫女さんという京都らしいアルバイトを体験したりと、京都での学生生活を大いに満喫しました。一方で、高校生の時に興味を持った視覚科学への探究心も満たすことができました。私の研究テーマは、文字に色がついて見える「共感覚」のメカニズム。

“色とは何か”ということを探る研究に没頭しました。私にとって京大は、先生や先輩、友人、良い出会いがたくさんあった場所です。今の自分があるのは京大のおかげだと思います。



もし自分が高校時代に戻ったとしても、やはり京大を選ぶだろうと、そう思える場所です。

やがて迎えた就活では、「自分らしい働き方」を重視しました。いろいろと悩み模索していた時に、出会ったのが今の会社。条件的にも自分が思い描く将来像的にもマッチし、ここなら1年目から自分がやりたいと思っている企画業務が出来るんじゃないかと、希望を持ちました。視覚科学の研究をしていたので、ビジュアル面で人を惹きつける“教科書作り”という仕事内容にも魅力を感じました。

それまで積み重ねた経験が生きる職場・仕事へ

今は編集者として、小学校の算数の教科書を作っています。数学が苦手だった私が算数の教科書を作っている。不思議な感じがしますが、それは大学時代にした塾講師のアルバイトのおかげです。教えるために数学の予習復習をする中で、昔はあれほど解けなかった問題が理解できるようになりました。積み重ねた経験が強みとなり、今に繋がっています。これは色覚についても実感していることです。小学校の教科書はイラストも多いので、特定の色が見えにくい色覚特性をもつ子にも対応する必要があるからです。大学で学んだことが今、大いに生きています。

教科書作りはチームで行うのですが、その制作スパンは長く、3~4年かけて1冊を仕上げるなんて事は当たり前。とても根気のいる仕事です。私が担当した教科書は2020年に出るものなのですが、私にとって初めて制作した教科書です。子どもたちにとってわかりやすく、楽しく算数に触れられるようなイラストやデザインを考えることはとても面白かったし、やりがいを感じました。これからもさまざまな工夫を施した、多くの人に喜ばれる教科書を作りたいと思っています。

出勤日のある1日

- 朝 8時起床、9時出社。資料作成、原稿チェック。
- 昼 社内・デザイナー・イラストレーター打ち合わせ。
- 夜 18時半退社。夕食後にバンド活動。25時就寝。

上司・同僚から一言

● 藤原智志(株式会社 新興出版社啓林館 第一編集部 第一課 課長)

木村さんはベテランの先輩が相手でも、意見を言うべき場面できちんと提案が出来ます。行き詰まった時でも妥協せず、じっくり突き詰めて考える、非常に信頼のおける部下ですね。少々のことではめげない根性のある性格も素晴らしいなと思っています。



将来の夢

楽しい教科書を作りたい!

教科書や教材を作る会社で私は算数の教科書の編集を担当しています。そういう意味では、文系と理系のハイブリッドとも言える総合人間学部で学んだことは仕事に直結していると感じています。子どもたちにもっとわかりやすく、勉強が楽しいと感じてもらえるような教科書をこの先もたくさん作り続けたいなと思っています。そして子どもが生まれたとしても今の仕事を続けていくことができればいいと思っています。



高校生のみなさんへ。 message to you!

京大に来たら、いろんな面白い出会いがあると思います。中には、自分の未来を変えるような出会いも待っているかもしれません。京都での学生生活はきっと、なにものにも代えがたい思い出や経験になると思います。受験勉強は大変ですが、無理なく、自分に合った勉強スタイルを見つけて頑張ってください。よかったら啓林館の教材も受験のお供にしてください!

高校時代のある1日

- 朝 6時半に起床。学校への行きの電車内で単語を覚える。
- 昼 学校で授業。終わったら学校や塾の自習室で勉強。
- 夜 20時に帰宅。夕食後に2時間ほど勉強し、24時就寝。



PERSON-03

吉田 優 YOSHIDA Yu

公共政策大学院 修士課程 修了
法学部 卒業
河瀬高等学校(滋賀県) 出身
日本経営システム株式会社

学びを深めるうちに変わった夢 将来の選択肢は無限大

何かに打ち込んだ経験がある人間は強くなれる

幼いころ、私は極度の人見知りでした。「同年代の友達と一緒にグループLESSONを受けさせたい」という両親の意向で、3歳からエレクトーンを始めました。エレクトーンはさまざまな音色やリズムを自分で作り出すことができ、“一人オーケストラ”とも言われる楽器です。自分の好きな曲を弾けるようになったことも嬉しく、やればやるほど奥深いエレクトーンの魅力に夢中になってしまいました。高校生になってからマネージャーとしてハンドボール部に入部しましたが、「エレクトーンの練習日と被るから」という理由で辞めました。大学でもエレクトーンサークルに入りますが、こんなに一つのことに夢中になったのは、後に



も先にもエレクトーンだけです。人見知りだった自分を変えてくれ、弾くことに喜びを感じ、受験生の時に勉強の息抜きにもなり、それと同時にエレクトーンに打ち込んだことで集中力や継続

力、表現力なども鍛えられたように思います。部活でも勉強でも、何かに打ち込んだことがある人は、努力や継続することの大切さを知っていると思います。この先何があっても心が強いと思います。

弁護士になりたくて志した京大法学部

エレクトーンに熱中していた私ですが、将来の夢は弁護士でした。親が経営している会社の関係で弁護士という存在を知り、「かっこいい。私もなりたい」と思いました。弁護士になるためには、大学で法学部に行かなくてはなりません。大学受験は早くから意識し、中学3年生の時には京大の中学生向けオープンキャンパスへ友達と参加しました。大学というものに触れたのはその時が初めてでしたが、学生がのびのびと勉強している雰囲気、「自由な雰囲気でいいな」という漠然とした憧れを持ちました。それ以来、進学先として京大を意識するようになりました。

私はどちらかといえば理系科目の方が得意で、国語よりは数学の方が好きでしたが、法学部に入るために高校では文系クラスを選択しました。本格的に志望先を京大と決めたのは高校2年生の時です。滋賀の実家からも近いし、何より神社仏閣や古い町並みが残っている「古

わたしの

こうやって勉強しました。

学 生

時 代

大学受験までを考えると年単位で長く感じてしまうため、私は直近の模試に目標を定めて勉強をしていました。模試は出題される範囲があらかじめ決まっていることが多いので、「この模試までにこの教科をここまでやっておこう」と逆算して勉強の計画を立てます。身近な目標なので対策もとりやすいし、おかげで結果も出すことができました。良い判定

が安定して出ていたことで気持ちの面でも余裕が出てきて、勉強することがより楽しくなりました。苦手科目だった国語に関しては、センター対策としては繰り返し問題を解き、間違えた問題は必ず復習していました。京大の2次試験は解答欄が大きいので、過去問題に挑戦しては先生に添削してもらい、書き方や解き方に慣れるような対策をとっていました。

都・京都」で学生生活を送りたいと思いました。明確な目標ができたことで、受験勉強にも身が入り、受験生生活も楽しみながら頑張れたと思います。

海外での経験を通じて大きく広がった視野

念願の法学部に入学した後は弁護士を目指して勉強をしていましたが、その夢が大きく変わる出来事がありました。3回生の夏に、現地のNGOによるタイの少数民族山岳民族の支援にボランティアとして参加したことがきっかけで、開発支援や国際協力に興味を持つようになりました。国際法を学べるゼミを選択し、4回生の時にはJICAのプログラムでインドネシアに3週間程度行きました。海外での体験や勉強を重ねるうちに視野が広がり、途上国支援に携わりたい仕事になりたいと思うようになりました。学生のうちにより多くの経験を積んだ上で将来の選択をしたいと考え、自身の関心分野について学ぶことが出来る



京大の公共政策大学院に進学することになりました。そして大学院1年目の夏に二度目の転機が訪れます。パレスチナでインターンシップを行い、産業廃棄物処理や観光振興、工業団地建設などさまざまなプロジェクトについて学ぶうちに、途上国支援においても政府だけではなく、民間企業が大きな役割を果たしていることに気づきました。公的な機関にこだわる必要はない、「民間企業へ就職するという道もあるのだ」と考え始めました。

幅広い問題に対応できるコンサルタントとして

一択しかないと思っていた将来の選択肢ですが、京大で勉強を深めていく中で、いろいろな選択肢があることに気づくことができました。民間企業への就職も視野に入れて企業説明会に行くうちに、企業が抱えている問題を解決するコンサルタントという職種を知り、「面白そうだ」と感じました。ただし、コンサルタント職は激務で、スキルを身につけたら他社に転職しキャリアアップするというイメージがあり、自分に務まるだろうかと考えていたところ、新卒しか取らない、自分の会社で長期的にコンサルタントを育成するという会社と出会いました。それが、いま私が働いている日本経営システムです。専門分野を絞るコンサルティング会社も多い中、分野を絞らずどんな問題にもクライアントと協同作業で問題解決を図る事業モデルに共感し、私は経営コンサルタントになりました。問題を体系立てて考えることは、大学時代の法律の勉強とも通ずる部分があります。全く専門分野と関係のない会社に就職したと思われるかもしれませんが、物事を体系的に考える力は、大学での勉強を通じて身に付けることができたと思います。現在、弊社は海外の仕事も頑張ろうとしている段階なので、国際を志す身としても、将来的には挑戦したいと考えています。

出勤日のある1日

- 朝 6時半起床、クライアント先に出社前に資料など作成。
- 昼 出社後、日中はクライアントと会議や打ち合わせ。
- 夜 20時退社。チームで夕食後にホテルに戻って残務処理。24時就寝。

上司・同僚から一言

● 細田俊 (日本経営システム株式会社
マネジメントコンサルタント)

初めて一緒にチームを組んだ時に感じた吉田さんの第一印象は、とても落ち着いた方だということです。まだ入社2年目ですが、突発的なことにも動じず、冷静に物事に対応できる力を持っている心強いチームスタッフです。



将来の夢

多面的な問題解決のプロ

コンサルタントという職種は、専門的な分野に絞っているからこそ強みを発揮できる面もあると思うのですが、実際のコンサルティングの現場では、当初依頼を受けていたテーマとは違うところに真の課題が存在することもあります。特定の専門領域に分野を絞らないコンサル会社に入ってからには、人事やシステムなど複数の領域に精通し、多面的に問題を捉えられるコンサルタントになりたいと思っています。



高校生のみなさんへ。 *message to you!*

高校でしか出来ないことを大事にして下さい。勉強や部活、学校の行事、習い事など、何でも構わないので、自分が打ち込めることを見つけて、一生懸命やっておくことをお勧めします。京大はよく自由と言われていますが、自由だからこそ、どのような勉強がしたいかを自分で決めなくてはなりません。「自分で考えて行動すること」が大事になってくる学校です。

高校時代のある1日

- 朝 6時半に起床。
通学の電車内で英単語や歴史を覚える。
- 昼 学校の授業後、放課後は塾へ。
自習室で課題や自習。
- 夜 19時~21時に塾で授業。
22時半に帰宅後、24時までには就寝。





PERSON-04

高橋 まどか TAKAHASHI Madoka

総合人間学部 国際文明学系 卒業
奈良県 智辯学園高等学校 出身
関西電力株式会社

部活動で培ったチームを支える力 従業員を支える今に繋がっている

青春を勉強に捧げよ! 勉強一筋の高校時代

幼い頃から好奇心が強い性格だった私。中高一貫の学校に進学し、中学生の頃に両親や学校の先生から「目指すなら高い所を目指しなさい、自分自身の可能性が広がる選択をしなさい」と言われ、ぼんやりとですが京大を意識したことを覚えています。ただ、中学ではそんなに成績も良くなかったのですが、そんな私も高校時代には一念発起。高校時代を一言で表すと「勉強一筋!」でした。当時は学校の方針で部活動がなく、スポーツコースの生徒以外は勉強に集中していました。部活がない分、青春を勉強に捧げろと言われてました(笑)。18時半まで図書館が開いていたので、当時はそこに入り浸っていました。授業が終われば友達みんなでワイワイと「今日は図書館行く?」「今日は帰るわ」みたいな。おしゃれなカフェとかでなく、図書館が私達のたまり場で、宿題や勉強をする場所でした。みんなで遊んだり勉強したり、部活動の代わりに楽しく過ごしていました。

学校では先生が親身になって指導してくれたり、センター試



験用の補講や志望学校別の補講もあったりと、受験に対する学校のサポートは大きかったです。

京大は私の好奇心を満たしてくれる知の学び舎

高校の頃、好きだった科目は英語と世界史です。英語は、小学生の頃から英会話スクールに通っていたので一番得意な科目。世界史は担当の先生の授業がとても面白かったもののめり込みました。するとだんだん、「国際」や「文明」というキーワードに敏感になり、これらが学べる大学に進学しようと考えました。その候補の一つが京大だったのですが、本格的に志望したのは高校3年生になってから。オープンキャンパスで京大を見に行った時のことです。大学全体の自由な雰囲気や、学生が発するエネルギーにまず圧倒されました。そして、総合人間学部の授業内容を聞いた時、世界の歴史を学びながら現代の経済や政治史を勉強できる、そして芸術系の授業もあることを知りました。人間や文明、自然など、学ぶ分野の幅が広く、教養を深めるにはすごくいいな!と思いました。自分の知的好奇心がビシビシ刺激されて、学ぶなら京大だ! とその時、強く感じました。自分が社会に出た時にきっと役に立つと思って選んだ学部でしたが、その判断は今も間違っていないかと実感しています。

わたしの

こうやって勉強しました。

学	生
時	代

私は、学校の先生と小学生の頃から通っている個人塾の先生、私のことを誰よりも知っているそれぞれの先生方から受ける指導を元に勉強を進めました。どの参考書をいつの時期に解くか、赤本に着手する時期、センター試験に集中する時期など、タイミングやメンタル面も含めてサポートしてもらいました。「京大は過去問に特徴がある」と言われ、英

語も国語も解答欄が大きく、その中でいかに的確に自分で論理だてて書けるかが試されていたように思います。先生からは長文と難しい文を読むのに慣れるよう指導され、ひたすら過去問を解き続けていました。最初は自信がなかったのですが、勉強を積み重ねていく中で模擬試験でも結果が出るようになり、自分の中に自信が生まれてきました。

夢だった部活動! 体育会系アイスホッケー部のマネージャー

私は大学に入ったら絶対やることに決めていたことがあります。それは、部活動に入ること。高校時代に部活がなかった私にとって、チームで何かをするというのは憧れでした。ただ運動は苦手だったので、マネージャー志望ですね。いろいろ見学した結果、先輩方の雰囲気が良かった体育会系アイスホッケー部に入部することになりました。当時の私にとって未知のスポーツだったのも好奇心が刺激されたのかなと思います。大変だったのは時間のやりくりです。アイスホッケーはアイスリンクの氷を一番荒らすため、他の氷上競技の練習が終わった後に練習を行います。時間的に夜中です。それでも、チームのみんなと一緒に1つの目標を追うというのはこれまでにない素晴らしい経験だったので、やりがいを持って取り組んでいました。卒業後も、当時の同期やコーチ、先輩後輩達と仲良く交流出来ているのは特に嬉しいですね。久しぶりに会っても近況報告しながら思い出話をしている内に当時に戻った感覚になります。

もちろん勉強面でも、総合人間学部は人類が直面するさまざまな課題に挑む学部であり、どの講義を受けても新鮮で面白いと思いました。その中で私はイギリス史(海賊の歴史)を専門に勉強しましたが、大好きな世界史にどっぷり浸ることができて、学業と部活動で充実した学生生活を送れたことに満足しています。

チームの一員として関電の従業員を支えたい

部活のマネージャー経験を通して芽生えたのは、「責任感を強く持って働きたい」という意識です。就職活動時は、生活に必要なライフラインであるインフラ業界など、社会的に影響力が大きい企業に焦点を絞り、中でも、全てのビジネスや生活の営みの基盤となる電力を扱うためビジネスのフィールドが広く、また、OB・OG訪問を通して尊敬する社会人像に近い方が多かった関西電力で働くことを決めました。私が就活をしている時期に、電力小売全面自由化の話が出ていて、変化の環境で、会社とともに自分自身も成長できると考えたことも理由の一つです。



1年目は奈良営業所での営業職からスタート、2年目に本店に異動し人事労務分野の業務を担当した後、現在は採用を担当しています。人々の暮らしに直結する会社で、従業員の健康管理や人材採用を担当させてもらうことは、働いている従業員を支えることだと思っています。そして従業員を支えることで、関西電力の事業自体に携わっていると感じながら仕事ができる点に、やりがいを感じています。学生時代に培ったチームのマネジメント、マネージャーとしてチームに何ができるかというのを常に考えていた経験は、会社として成長するために、従業員にいかによりがいを持ってパフォーマンス高く仕事をしてもらうかを考えるという今の仕事に生きていると思います。

出勤日のある1日

- 朝** 9時半出勤(徒歩です)。採用面接運営など
- 昼** 昼食(1時間)のあと、午後からはインターンシップ運営会社とのコンテンツ打ち合わせ、資料作成など。
17時半退社
- 夜** 18時半帰宅。夕食、お風呂、ジム、海外ドラマ観賞など
23時半就寝

上司・同僚から一言

- 奥野雄平(関西電力株式会社 人財・安全推進室 採用グループ (平成23年3月 京都大学 経済学部 経営学科 卒))

高橋さんは、私より2歳年下なのですが、頼りがいのある「相棒」「仲間」として見えています。仕事に対しては常に前向き・意欲的に取り組む一方、穏やかで、親しみやすく、安心感のある明るい女性で、いつも周囲に慕われている姿が印象的です。私もこれだけ頑張る後輩がいると、「自分も負けていけない」と良い刺激をもらっています。これからも、一緒に頑張りましょう。期待しています!

将来の夢

組織全体のサポーター

人事や労務、採用は企業に必要な人材を見極めたり、サポートしたりする重要な仕事だと思って取り組んでいます。これらの仕事の専門性を高め、ノウハウを蓄積していきながら、いつかは組織全体を見る仕事や会社全体の方向性を考えるような仕事にも挑戦してみたいと思っています。今の会社によりがいを持って働いているので、この中でキャリアアップしていきながら、一人の女性としても、育児や家事など、家庭との両立を図っていきたいと思っています。



高校生のみなさんへ。 *message to you!*

自分が今やっている勉強について、どういう目的でやっているのか意識すると、受験だけでなく大学に入ってから役に立つと思います。目的意識を持って自分で勉強するという姿勢が身につくと思うので、そこはぜひ考えてみてください。京大には多種多様な学生がたくさんいて、魅力的な先輩も多いので、人とのつながりを楽しめます。

高校時代のある1日

- 朝** 6時半起床。朝ごはんの時間まで
英単語や世界史、日本史などの暗記物
- 昼** 授業のあとは学校の図書館で友達と勉強
(受験期前は球技大会の練習や文化祭の準備など!)
- 夜** 18時半下校。塾に行って22時頃帰宅、
夕食、テレビ、お風呂、宿題の残りなど。24時就寝





PERSON-05

永原 静恵 NAGAHARA Shizue

大阪府 四天王寺高校 出身
工学研究科博士後期課程 修了
日産自動車株式会社

女子よ工学部に来れ！ 京大はいろんなチャンスに恵まれている

物理化学とパソコンの 面白さに目覚めて工学部を志望

私は大学で工学部の電子工学科に入りましたが、中学生の頃は暗記する理科が苦手でした。しかし高校の授業では、どうしてこの現象が起こるのか、その現象はどんな物質に由来するのか、という理論が学べるようになったため、逆にとても面白く感じ、好きな科目になりました。京大を目指し始めたのは高校2年生の頃です。中学の頃は、京大は私には難しいと思っていましたが、理系の勉強が楽しくなってからは成績も伸び、挑戦してみようと思いました。

また、進路を考える際に影響を受けたものとして、高校の進学祝いとして両親がプレゼントしてくれたパソコンの存在もあるかもしれ



ません。これからの時代には必要だろうと与えてくれたものでしたが、当時は情報系の授業もなく、質問できる人もいなかったため、セットアップやインターネットの設定など、すべて自分

で行いました。用途としては、ネットサーフィンをする程度でしたが、楽しんで触っているうちに、いつしか情報やパソコンの構造自体にも興味を持ち、工学部への進学を考えるようになっていました。

電子工学科に入って遭遇した 二つのカルチャーショック

京大は理系の研究が盛んなので、いろいろと学んでいくうちに、将来像が見えてくるかもしれない。そう期待して入学した私の大学生活は、二つのカルチャーショックから始まりました。最初に驚いたのは女子の少なさです。私が入学した年次は、電気電子工学科130人中、女子はわずか7人。一般教養などの授業は3クラスに分かれて受講しましたが、入った私のクラスに女子は私一人しかいませんでした。女子校で育った私にはそれが衝撃的でした。今となっては微笑ましいのですが、初めは男子と距離を探り合うような生活が続きました。

そしてそんな環境にも慣れた頃、私をもう一つの衝撃が襲いました。一般教養の理系科目が難しすぎたのです。よく、大学になるとでは数学は哲学になるといいますが、まさにそのとおりで、授業中に幾度となく先生が一人で数字の宇宙に旅立られたような感覚を覚えました。これ

わたしの

こうやって勉強しました。

学	生
時	代

分らなかったことは、その日のうちに分かるようにする、ということを意識していました。理系科目の場合、問題や事柄の裏には必ず理由やルールがあります。公式なども意味を理解しようと思えばできると思い、解けなかった問題は、式を一行一行チェックして、こうだからこうなるという流れやルールを掴もうと努力しました。それでも解ら

なければ先生や友だちに質問をして、まずルール付けをやり直す。そして時間をおいて再度その問題に挑戦した時に、ルールを覚えてきちんと解くことができるか、ということの繰り返し行っていました。問題集はいろいろなものに手を出さず、ページをぱっと開いて問題を指定された時にすらすらと解けるぐらい、1冊をやり込みました。

には一時的に転学を考えるほど悩みました。しかし、そんな状態でもテストの点数は取れたことテストでは何とか合格ラインだったこと、そして年数を重ねていくうちに専門の授業が増えたことで面白くなり、乗り越えることができました。

大学院にはさまざまなサポートが用意されている

京大工学研究科には、大学院に入る際に博士課程まで進むことを決めたら、院試が一部免除されるうえに、成績順で選択権を得る研究室の配属も優先的に決めることができる連携プログラムがあります。実は、私が博士まで進んだのは、そのお得なシステムに乗っかってみようと思ったからです。

当時、私が研究していた内容は生体機能工学といって、人間の体、特に脳神経系の機能を計測・解析することです。例えば、脳の画像を連続的に撮ってコンピューターの解析にかけることで、脳の活動を測ったり、病因の発見に繋がったりできないか、というような研究です。工学のもの作りの面から、医療の発展に貢献したいと考えたのです。

在学中は短期留学も経験しました。大多数の大学は、学会への参加や留学にかかる費用を自費でまかなうことがありますが、京大の場合、大学や研究室でサポートしてもらえるのが主流です。留学プログラムも、政府や一般企業による金銭的な補助付きの案内も多数あり、自分が行く気になれば機会を得ることができます。これだけチャンスが豊富なのは、京大だからこそだと思います。

難しいからこそ面白い。 改めて感じるもの作りのやりがい

就職に際しては、研究者という選択肢もありましたが、しかし考えた末、私は研究成果を発表するだけではなく、その成果を使って実際に機械を開発するところまでがやりたいのだと思い至りました。私が就職先として望んだのは、MRIなどの医療機器を開発している企業、もしくは、人の動きや様子を計測して機械と連動するもの作りができる企業でした。日産自動車では、運転者の脳波をセンサーで測り、その状態に合わせた運転サポートができないかという技術を研究しており、私はぜひともその開発に関わりたと思いました。

就職した当初、配属されたのは、カーナビなどIT部品の開発をする部署でした。希望した研究そのものではありませんでしたが、車の知能化という目的は同じでしたし、常に新しい技術に触れることもでき、とてもやりがいがありました。今は商品企画という部署に移り、作る立場から提案して作ってもらう立場にいます。企画を実現するために情報収集をしたり、開発側に調整をかけたりと、新しいものを0から作るのは難しいですが、難しいからこそ面白いと感じています。



出勤日のある1日

- 朝 フレックスとはいえ9時頃に出社。たまに遅くなることも
- 昼 チームで企画を考えたり、各所に調整を図ったり
- 夜 20時頃まで働いて0時に就寝。今の部署は結構忙しい

上司・同僚から一言

永原さんと一緒に仕事を始めて、まだ期間は浅いのですが、彼女はお願した仕事をとにかく正確に早くやってくれる。コミュニケーションも円滑で、すごく優秀だと思います。女性が活躍できる環境は整っているので、ぜひ頑張ってくださいと思っています。



将来の夢

利益という目線にも挑戦

より良い未来に向けて商品や開発を行っているのですが、やはり会社である限り、利益を追求するという課題があります。新しい技術に挑戦したくても、夢のある企画を提案しても、そこをクリアしなければ、まず作ることができません。ここは研究者の道とは違うところだと思います。キャリアを積む中で、そういった会社のシビアなところが見えてきたので、いつかその世界も覗いてみたいと思っています。



高校生のみなさんへ。

message to you!

女子の皆さん、ぜひ工学部に来てください。工学部の実験や研究の大多数は、最終的にものを作るというところに繋がっています。もの作りで成り立っている日本という国に自分が貢献できるというのは、やはり魅力的なことだと思います。いろんな不安もあると思いますが、皆さんが思っている以上に、工学部系の女子に対して大学や社会はウェルカムです。

高校時代のある1日

- 朝 8時50分からがつり授業。毎日大体7時間目まで
- 昼 塾がない時は16~17時に帰宅。晩ご飯までは宿題の時間
- 夜 ネットサーフィンを楽しんでもう少し勉強。就寝は0時





PERSON-06

仲 暁子 NAKA Akiko

経済学部 経済経営学科 卒業
千葉県出身 タマテア・ハイスクール卒業(ニュージーランド)
Wantedly 代表取締役CEO

「まずはやってみる」から答えが見つかる 私の使命はシゴトでココロオドル人をふやすこと

自信を持って臨んだ 留学で待っていたのは暗黒時代

子どもの頃から両親に連れられて海外に行く機会が多かった私は、親の姿を見て「英語が話せるということは世界が広がるということ」だと思い、中学卒業後に留学することを決意しました。昔、母親の仕事の関係で1年間アメリカに住んだ経験から、ヒアリングに自信を持っていたので、英語が得意だと自負していました。自主的にさまざまな資料を取り寄せて検討し、結果的に選んだのはニュージーランドの高校でした。しかし、実際に暮らし始めると愕然としました。日常会話はできても、ユーモアを交えた会話はできず、ネイティブの



人と上手くコミュニケーションをとることが難しかったのです。

そんな高校生活は、私の中では暗黒の時代といえるかもしれません。中学時代は学級委員を務めた

り、クラスの会話の中心の方にいました。しかし留学をして、思いどおりに話せない自分が、一気に中心的存在から転落してしまったのです。それを悔しく思った私は、成績で取り返すことを心に決めました。

悔しさをバネに必死で勉強——努力は報われる

ニュージーランドの高校生は、国内統一の高校教育認定資格を取得します。これは国内や他国の大学に進学する際に、判定基準となる重要な資格です。タマテア・ハイスクールでは、卒業セレモニーでその首席を発表するのですが、悔しさをばねに、人一倍勉強に努力した結果、私の年次では自身が名前を呼ばれることとなりました。誰もが認める天才肌の生徒をおさえての首席ということで、それは大変嬉しく、確固とした自信に繋がりました。「勉強しかしていない」といっても過言ではないほど、ガリ勉で過ごした3年間は、苦勞した時期ではありましたが、努力は報われることを実感し、メンタリティを鍛えることができた貴重な時間でした。

卒業後の進路を決めるにあたっては、先生方にアメリカの大学を勧められましたが、悩んだ末に京大を選びました。海外で暮らしてい

わたしの

こうやって勉強していました。

学	生
時	代

宿題が比較的多い学校だったので、毎日、渡された問題集をひたすら解き、採点して学校へ持って行っていました。また、次の日に学習する範囲を予習し、実際に問題を解いておくことも、毎日やっていたように記憶しています。しかし、私にとっては言葉が話せないことが何より悔しかったので、英語は本当に勉強しました。今もよく

聞かれるのですが、英語力を伸ばす一番の方法は、とにかく単語を覚えることだと思います。私の場合は、難解な単語帳をベッドの横に置き、1日10個覚えるというノルマを課していました。単語帳が擦り切れるまで何度も読み返し、着実に単語力を身につけたことが、今の英語力に生きていると実感しています。

ると、程度の差こそあるものの、やはりアジアへの区別を感じます。大学でもう一度その足枷をはめるよりは、何もないフラットな状態で勝負をしてみたいと考えたのです。また、日本を長く離れていたの、日本的な場所に住んでみたいという思いもありました。

0から1を生み出すことに挑戦し続けた大学時代

日本とニュージーランドでは卒業時期にズレがあるため、帰国してから半年ほど予備校に通い、帰国子女枠で京大を受験しました。経済学部を選んだのは、その頃からビジネスに興味があり、経営を学びたかったからです。そして入学後はいろんなことに挑戦しました。

1回生の時には、スポンサーをつけたミスコンを企画したり、京大生向けのクーポン付きフリーペーパーを創刊したりしました。2回生では運営資金を稼ぐことやビジネススキルを磨くため、京大OBの会社に通い詰め、アルバイトとして企画から営業まで行いました。初めて起業をしたのもこの頃です。この会社は、最終的には方向性が定まらず空中分解してしまいましたが、「起業は手段であって目的ではない」という貴重な教訓を得ることができたと思っています。

当時、私が行っていたのは0から1を生み出し、それを売り込むことです。ビジネスにおいて、経験値は基礎体力となるため、早く始めれば始めるほど有利になります。そういった意味で、人より長くキャリアを積めたことは、アドバンテージになったと感じています。

「好き」を仕事にする幸せ。そんな人を増やしたい

卒業後はゴールドマン・サックス証券に就職し、海外機関投資家向けの営業を担当しました。優秀な人が多く学ぶことも多かったのですが、金融機関の業務は1を10や100にするのがミッションです。私が人生をかけてやりたいことを考えた時、やはり0から1を生み出したいと思いました。そして2年弱で退職し、夢だった漫画家を目指したり、Facebook Japanの初期メンバーとして参画した後、26歳でWantedlyというサイトを立ち上げ、同名の会社を設立しました。

Wantedlyは、「であう・つながる・つながりを深める」を柱としたビジネスSNSです。求職者と企業のマッチング、長期的な人脈の構築、ビジネス専用チャットの提供などを行っています。現在の利用者は月間200万人。それだけの人に影響を与えているというところに、とてもやりがいを感じていますが、もちろん全てが順調なわけではありません。それでも起業を後悔しないのは、好きなことを仕事にして、日々、仕事で心を躍らせているからです。Wantedlyを通して、私のような「シゴトでココロオドル人」をもっと増やしたいと考えています。



出勤日のある1日

- 朝 9時～9時半に出社。
忙しい時は朝イチからミーティングが
- 昼 14時までは脳のゴールデンタイム。
フル活用で仕事に集中
- 夜 長期的な経営戦略などを検討。
今は22時に寝るのが目標

上司・同僚から一言

● 川崎 禎紀 (ウォンテッドリー株式会社 取締役CTO)

弊社代表の仲は、非常に多彩で多様な側面を持っている人間です。あるときはビジョナリーとして会社のミッションを熱く全社員の前で語り、またあるときはプロダクトオーナーとして新製品のユーザ体験設計を考え抜き、そしてまたあるときはビジネスリーダーとして海外展開を先導し戦略立案をしています。7年間共に働いていますが、度々驚かされます。



将来の夢

インパクトの最大化

Wantedlyのミッションは、「シゴトでココロオドル人をふやす」ことです。「ココロオドル」とは「没頭することで成果を出し、成果を出すことで成長を実感する」ことを意味するのですが、そういったユーザーやクライアントの数を増やすため、私は常に「社会に与えるインパクトの大きさ」を考えています。その最大化を目指すには、現在の会社規模ではまだ小さいように感じています。今後は事業の拡大を通じて、もっと「シゴトでココロオドル人をふやす」ことが目標です。



高校生のみなさんへ。 message to you!

今のうちから時空、つまり時間と空間を広げることを意識してください。時間を広げるとは、書籍から過去を知り未来へと思考を繋げること。空間を広げるとは、今いる場所に留まらず積極的にいろんな場所に出向くことです。その経験はきっと使命の発見に繋がります。命を使うと書いて使命。人の人生をなぞるのではなく、自分で命の使い方を決めてください。

高校時代のある1日

- 朝 9時頃～授業開始。1限1時間で、午前中はだいたい2科目
- 昼 ～16時頃までみっちり授業。
選択科目は理系をチョイス
- 夜 夕食後はガリ勉タイム。
3時間ほどしっかりと勉強して就寝

大学時代のある1日

- 朝 8時45分～授業開始。
就寝が遅くてもちろん1限から登校
- 昼 ～18時まで授業を詰めて、
なんと3回生の前期で全単位を取得!
- 夜 ビジネススキルを磨くため、
深夜まで先輩の会社でバイト





PERSON-07

奥村 優子 OKUMURA Yuko

大学院 文学研究科博士後期課程 修了 博士(文学)
文学部 行動・環境文化学系 心理学専修 卒業
徳島県 徳島文理高等学校 出身
NTTコミュニケーション科学基礎研究所 協創情報研究部

様々な選択肢の中から選んだ研究者への道 基礎研究を社会貢献へつなぐ

数学好きで国語が苦手な私は絶対理系!

阿波おどりで知られる徳島市で生まれ育ち、小学生の頃から陸上少女でした。中学や高校でも陸上競技部に所属して、ハードルを専門に毎日部活に打ち込んでいましたね。部活の先輩には、勉強も部活も両立できている優秀な人が多く、自分も頑張らねばという意識は強かったです。

高校では京大・東大や医学部を目指すクラスにいたので、授業の難易度も高く、先生方も大学入試を意識した授業をしてくださっていたと思います。得意科目に関して言うと、私は幼い頃から数学が好きでした。解答を導き出すこと、明快な答えが出ることが面白いと感じていました。逆に苦手だったのが国語で、読解問題は見事に外していました。そのため、当時、自分は絶対理系だ!とっていました。高校時代のことで特に覚えているの



は、高2の夏に行った3週間のイギリス短期留学です。海外で得た学びや体験は何にも代えがたい経験で、視野が広がりました。この頃、外国に行ってみたいという意識が自分の中に芽生えました。

選択肢の幅を求めて文学部を志望

両親が教師だったので、将来の夢は漠然とですが教師でした。進学先の候補の一つとして京大はありましたが、明確な目標になったのは高校2年生の時にに行った京大のオープンキャンパスがきっかけでした。京大の教育学部の見学に行ったのですが、併せて見学した文学部の方に私は興味を抱きました。なんといっても、学びの範囲が「人類の営みに関して」。幅広過ぎですよね。その時に、教師以外の道も視野に入れ、幅広く学べて選択肢が広いところに行こうと思い、最終的に京大文学部に決めました。オープンキャンパスによって京大の雰囲気や学習内容を知ることができ、「京大で学びたい!」と強く思えるきっかけになったので、悩んでいる高校生の方はぜひオープンキャンパスに参加することをお勧めします。高3の夏頃から受験勉強にも本腰を入れましたが、周りの友達も上の大学を目指していたので、励まし合い、刺激し合いながら進めることができたと思います。受験生

わたしの

こうやって勉強しました。

学	生
時	代

京大の問題は独特であり考えさせられる問題が多く、細かい知識というより応用が利く知識が必要だと思います。基礎から応用に繋げることができるように、応用問題をいくつも解きました。参考書や問題集はあれこれ手を出さず、先生に推薦され自分に合っていると思えるものを繰り返し解き、単語帳もこれだという1冊を決めて

やりこみました。数学でわからない問題があった場合、ずっと考え込むというより、解答を見て解き方を覚えるという方法をとっていました。間違えた問題は徹底的に復習し、わからないことを残していかないようにすることも重要だと思います。

の時は、平日も土日、学校や家、塾の自習室を使ってひたすら勉強していました。憧れの京大に入りたいという目標があったので、受験勉強が嫌になるということはありませんでした。合格した時は嬉しくてたまりませんでした。

バックパッカーとして40カ国を旅した大学時代

京大に入学後は、想像していたよりもっと自由な学生生活が待っていました。高校時代に芽生えた外国へ行きたいという気持ちは加速し、バックパッカーとして40カ国ほど一人旅をしました(今も休みを取ってよく旅行をします)。塾、飲食店、旅館などいろいろなアルバイトを経験してお金を貯めて、夏休みや春休みなどの長期休暇はいつも海外に行っていました。シベリア鉄道でウラジオストクからモスクワ横断、南米大陸を周遊したりと楽しみました。そのおかげで、ちょっとやすそとでは動けない度胸が身に付きました。海外とつながる仕事がしたいと思い、卒業後の就職先として商社を志望していましたが、4年生になり卒業論文の研究を始めた時に変化がありました。



幅広く学べると思って決めた文学部でいろいろ学んでいる内に、私は心理学に興味が湧きました。研究対象を乳幼児とする板倉昭二教授のもとで発達心理学を勉強していく内に、そこで初めて知ること、学ぶことがたくさんあり、新鮮さと面白さを感じました。そこで、もっと詳しく知りたい、明らかにしたいという気持ちが強くなり、大学院への進学を決めました。

サイエンスの研究をしながら社会貢献を目指す

大学院では、乳児期の社会的学習メカニズムの解明に取り組み、研究することの楽しさを知りました。研究成果を評価していただき、京大総長賞やたちばな賞を受賞したことも、自分がやってきた研究への自信につながりました。

大学院博士課程の時に将来の道を考えていたところ、NTT研究所という民間企業でも、私の研究を続けられる道があることを知りました。NTT研究所では基礎研究ができ、そこで得た成果を社会に出すための応用研究もできるという両方を兼ね備えていることが魅力的であったので、入所を決めました。

私は現在、乳幼児のコミュニケーション能力の発達過程を解明していく基礎研究を行っています。子どもが喋る様子をモニタリングしながら分析・解析し、これを育児や教育支援へとつなげる仕事です。一流の研究者を目指し、自分の研究を発展させることで社会に貢献していきたいと思っています。

出勤日のある1日

- 朝** 9時半ぐらいに出社。
午前中にメールチェック、研究打合せを済ませます
- 昼** たまに女性チームでランチ会。
午後からは乳幼児実験、研究打合せ、論文作業
- 夜** 19時30分に帰宅。夜はだいたいテレビ、読書などのんびりと過ごし、24時ごろには就寝

上司・同僚から一言

●小林哲生(主幹研究員)

奥村さんは、赤ちゃんの言葉と心の発達に関する研究で卓越した成果を数多く創出し、現在、世界の研究者から注目されています。最近では、科学的エビデンスに基づいて、お子さんの興味と発達にぴったりの絵本を検索するシステムの開発を行い、育児・教育支援に貢献する商品やサービスの提案まで行っています。飽くなき科学的探究心と最後までやりきる粘り強さが奥村さんの最大の武器であり、会社でも頼もしい存在になりつつあります。



将来の夢

一流の研究者に!

文学部に入った頃は、自分が研究職の道に進むとは思っていませんでした。特に心理学の分野で、民間企業の研究所は国内でも希少だと思います。今は研究者として、乳幼児の語彙・文法学習の基礎研究を発展させ、言葉に遅れがある子への支援などにもつなげたいと思っています。そして、一流の研究者としてのキャリアアップを目指していきたいと考えています。



高校生みなさんへ。 *message to you!*

受験生の時は、不安になったり辛くなったりすることが多いですね。私から言えるのは、大事なものは心が折れないようにすることだと思います。私はリラックスする時間をとるなど、適度な息抜きを心掛けていました。友達や家族と遊んだり、読書をしたりと勉強以外の時間を有効に使って気分転換しながら、受験を乗り切ってください!

高校時代のある1日

- 朝** 6時に起床。1時間ほど勉強してから
朝ごはん、準備をして登校
- 昼** 授業、部活と夕方まで過ごし
18時半ごろに帰宅
- 夜** 夕食後は塾or自習室で勉強し
22時ごろにお風呂。リラックスタイムのあと就寝





PERSON-08

阪井 裕美子 SAKAI Yumiko

理学部理学科 卒業
大学院 理学研究科生物科学専攻 卒業
四天王寺高等学校 卒業
大阪府 出身
シスメックス株式会社 勤務

生物の研究に 生涯ずっと関わり続けたい

幼い頃から生物が好きでした

中学時代は生物部でしたが、生きもの係といった育てる要素は少なく、活動は教科書が基本の実験がメイン。私は単純に生き物が好きというよりも、教科書に学ぶ生物学に心惹かれ、自然な流れで得意な科目は理科でした。生物を好きになったきっかけは、テレビで毎週見ている生き物の生態や特長を細かく掘り下げて紹介する番組との出会いでした。楽しみながら学べることはとても興味深く、おもしろいと夢中になって観ていました。子供の時に興味を抱き、遊び感覚で学んだことすべてが、今につながっているのだと思います。



実は、大学受験 科目は物理と化学

「生物に惹かれていたあな
たが、なぜ高校時代は物
理と化学を選択したの?」
と不思議に思われることが
少なくありません。ただ進
学校ということもあり、受

験戦略も含め自分なりに将来の予測を立て、生物を深掘りするのは大学以降にしようと考えました。不安もありましたが、「将来、生物の学びを進めるにしても、物理は基礎としてしっかり学んでおいたほうがいいよ」という助言に背中を押され、物理と化学を選択履修しました。今振り返ると、この選択はその後、理学部で学ぶ上で本当に良かったと思っています。幅広い学問分野が同居する理学部で、学びの対象を最大限に広げることができました。

数ある大学の中から、 京都大学を目指そうと思った理由

オープンキャンパスは大阪大学や神戸大学等々、いろいろな大学に行きました。ずば抜けて京都大学は自由な雰囲気、そこがすごく魅力的でした。また、先生方が高校生の質問に対して「それ、おもしろいね」と座談会形式で対等な目線でずっとつき合ってくださっていました。オープンキャンパスの時点で「あ、素晴らしい環境だ」と確信しました。その後私は、博士課程まで進みますが、サイエンスに関して先生方は学生と対等にディスカッションしてくださるので、フラットな関係性というか、気軽だけど真剣に話をして

わたしの

こうやって勉強しました。

学	生
時	代

「優先順位をつけてやること」を意識して勉強をしていました。まず事前に計画を立てること、これが自分のスタイルでした。例えば、夏休みなら一日一日をどのようなスケジュールで時間を費やすのか、先に決めて、あとはそれに沿ってやっていくだけ、とはいっても、絶対うまくいきません。テスト直前になって「絶対終わらない〜」となったとしても、そこは冷静沈着に「じゃあどこからやるか」と、ここでも優先順位をつけることを実践します。宿題の量も多く、テストの範囲も広がった

ので、そうやって優先順位をつけて、しっかり勉強したところと、時間がなくてやれなかったところを自分でわかるようにしておきます。やっていないところがテストに出て点数が取れなくても、落ち込む必要はありません。そうして過度なプレッシャーをかけずに、一歩ずつ積み重ねていくことが合格につながったとふり返って思います。基本的には、学校の授業をしっかりと頭に入れることと、わからないことあったら先生に質問しに行くことも大切なことだと思います。

いく中で新しい知識を得られる、それが京都大学の魅力の一つだと感じています。

いざ入学。理学部は女性が1割

女性は少なかったです。わずかに1割でした。私が入ったときも300人中約30人ですね。6クラスに分かれますので、平均大体5人です。しかし、女性が少ないからといって過ごしにくいと思うことはありませんでした。私は、女子校出身だったので、女子校から男子校に入ったみたいな感じはありましたが、特に男だから女だからという性差の部分もないし、男の子に対して物怖じして何も言えないということもなかったです。理学部ということもあったかもしれませんが、多様な人がいて世界が一気に広がった感じがしました。社会にでた時もいろんな方がいると感じましたが、その理学部での経験が生かされていると思います。

生物の学びに明け暮れた大学、大学院の日々

生物を学びたいと純粋に思い入学を果たしましたが、生物の体の成り立ちは、神の領域というか少し怖いという感情を抱いていました。しかし理学部の阿形先生の授業を聞いて、考え方が180度変わりました。からだづくりの仕組みは単純だけど、ものすごく美しい。そして、それを構成する細胞ひとつずつに、また魅力がいっぱい詰まっている。そう思うようになりました。その後の大学院では、植物の表面に存在する気孔というガス交換の器官がどのように発生するのか、その分子機構について研究しました。植物も動物もはじめは一つの受精卵で、そこから多様な細胞がどのようにできるのか、ということが興味の対象でした。毎日、顕微鏡とニラメッコしていたことが懐かしく思い出されます。

今、ふりかえって思うこと。 そして、これからの私。

大学から修士課程を経てドクターの道に進んだのは、やり始めた研究を最後まで、まとめあげたいという強い思いがありました。先述の通り、とても魅力的な大学ですから、卒業後も大学院に残って自分の興味を追究するという道もありましたが、次第に、自分の生物の研究が世界中の人々に広く貢献できるものにつながってほしいと強く望むようになり、今の会社に入社しました。現在入社2年目になりますが、研究開発の一翼を担っていけるよう、今後も力を培っていきたいと思います。



出勤日のある1日

- 朝 フレックスタイム制だが、だいたい9時に出社。プロトコルをつくって、いざ実験開始!
- 昼 福利厚生に力を入れている会社なので、社員食堂もバランスのとれた献立。
- 夜 夕方にはデータのまとめや会議。その後、明日の予定をメモして退社。

上司・同僚から一言

シスメックス株式会社 中央研究所

阪井さんの第一印象は「志が高い」。弊社は臨床検査の会社として、血液を対象とした細胞計測を中心にビジネスを展開していますが、研究所としては、細胞、遺伝子、タンパクそれぞれについて新しい測定技術を開発しています。細胞は顕微鏡で見えるし、数えることも可能です。遺伝子は確立された精製・増幅方法があるから分析しやすい。でも、タンパクは見えないし、形もわからない、数えられない、千差万別……分析対象としては大変難しい分野ですが、さまざまな技術プラットフォームがある中で「これからはタンパクだと思う」と、一番困難な測定技術の道をあえて選んだところに、彼女の志の高さを感じています。



将来の夢

めざせ! 再生医療

再生医療にチャレンジしたいと思います。近年盛んに大学、研究機関で取り組まれている、たくさんの成果が挙がっていますが、医療のひとつとして普及していくにはまだまだ課題があり、それを克服するのに貢献したいというのが将来の夢です。再生医療関連のプロジェクトは数々スタートしており、私も移植前検査法の開発など、いくつか同時に参画しています。プロジェクトを進めることは大変やりのありますが、先輩方のように自ら起案をして動かし、いけるように成長できたらと思っています。



高校生のみなさんへ。

message to you!

毎日、授業やテストや部活動で忙しいと思いますが、受験に関しては「自信を持って受験会場に着席する」ことを目指して頑張ってください。自分が自信を持ってそこに座れたら、もういけたも同然だと思います。そのためには、自信がつく勉強方法を見つけて、やり切ったと思えることが大事ですね。ライバルたちを目の前にして、一瞬ひるんでしまいがちですが、雰囲気にもまれ、周囲の言葉に惑われない。最後まで不安なのはみんな同じ。これまで一生懸命やってきた自分を信じて、今までの努力を糧に受験に臨んでください。



高校時代のある1日

- 朝 満員電車で1時間かけて学校へ。他人の背中から英単語を覚える。
- 昼 1限から7限まで、毎日みっちり授業をこなす。
- 夜 放課後は、週4でバドミントン部の練習!

大学時代のある1日

- 朝 朝ごはんを食べたら、1限目から講義を受けます!
- 昼 ランチは生協食堂で。友達とゆっくりパフェを楽しむことも。
- 夜 授業後は、アーチェリー部。楽しく、ゆるく、力強く弓を射る。



PERSON-09

田中 美澄枝 TANAKA Mizue

農学部 森林学科 卒業
大学院 修士課程 修了
滋賀県立河瀬高校 卒業
滋賀県 出身
タキイ種苗株式会社 勤務

京大ありきの私の大学選び。 植物の学びを深めたいと思ったら、そこに農学部があった。

周囲の応援が私を突き動かす原動力に

私は、地元の公立中高一貫教育の高校に通っていました。クラブ活動は高校から始めたソフトテニス部で運動がしたくて入部しました。得意な教科は国語、英語、生物でした。文系科目の中で、生物が好きだったのは、小さいころから植物が好きだったことと、学外で続いていた、ボランティア活動(子どもたちと野外活動を行う等)が影響しているのかもしれませんが、とにかく植物など生き物の仕組みに興味があり、生物が得意な科目になりました。京都大学への進学を意識し始めたのは、高校に入ったところで、冗談交じりではあったのですが「私、京大にいくから!」と公言していました。高校3年生の頃には、本格的



に目指すことになりました。友達も先生もみんな本当に応援してくれました。周りは、得意科目が国語と英語だったこともあり、文系に進んだほうがいいと思っていたよう

ですが、興味を抱いていたのは植物だったので、オープンキャンパスも迷わず理系の学部を選びました。周囲の応援が私を突き動かす原動力になったと感謝しています。数ある学部の中から農学部森林科学科を第一志望に決めたのは、植物が好きだったということはもちろんなのですが、森を背景に笑顔で集う学生が表紙のパンフレットに心惹かれたという部分もあります。

自由で、恵まれた学びの環境

入学して、学びの環境がとても自由であるということを実感しました。森林科学科の実習で山に入り、片っ端から生えている植物を先生が解説されるという授業があるのですが、道沿いに生えている木の名前や見分け方などを全部細かく教えてくださるので、メモを取って聞き歩きます。山頂まで登ったところで、「はい、これは何の木か名前を答えなさい」と枝を見せられるので、みんな真剣そのものです。私は幼少期に野の花図鑑に載っている植物をすべて覚えていたこともあり、記憶が蘇り本当に楽しかったです。また、私はウィンドサーフィン部に所属していたので、放課後は琵琶湖上で風を感じながら帆を進めていました。京都大学は、自由で、恵まれているのは

わたしの

学	生
時	代

こうやって勉強していました。

私の場合、前の晩に翌日の授業のために、1時間でも30分でも時間のとれる限り、予習と復習はしていました。それを基に、学校での授業をしっかりと頭に入れておき…が繰り返しの毎日でした。基本的には学校でそろえた問題集を各教科ごとに「今日はここまで」とか「この問題集は2ヶ月で終わらせるぞ」と自分なりに目標を決めていました。自分で決めたノルマをやりきったら、達成感が味わえます。それが楽

しい。それで、その問題集が物足りなくなってきたら、本屋へ足を運んで、次の段階の問題集を買ったりしていました。そうはいっても、けっこう飽き性なんで、同じことの繰り返しに煮詰まって、その日の気分で自分のノルマを緩くしたりしたこともあります。志望校合格実現につなげるために、続けることが大事です。そんな日があってもよし、そう自分に言い聞かせて、翌日はさぼった分、頑張りました。

学習環境だけじゃないと思いました。

変な植物を研究したい。 かなえてくれた熱帯林環境学研究室

1回生では一般教養がメインですが、2回生では先述のように少しずつ実験、実習などの専門の学びが増えていきます。3回生のうちに所属したい研究室を決めておき、4回生から配属になるのですが、私はどうしても変わった名前や一般的な目線で「変な」といわれる植物の研究がしたかったので、迷わず「熱帯林環境研究室」を希望しました。そして、念願がなってタイを調査地として「着生植物」についての研究に取り組みました。土壌に根を下ろさず、他の木の上や岩盤などに根を張り育つ植物のことなのですが、京大は学びたい学生の希望を支援する制度や機会、学内のプロジェクトに本当に恵まれており、私はこの研究に集中して取り組み、大学院修士課程まで進むことができました。



今、ふりかえって思うこと。そして、これからの私。

私は今、野菜・草花・牧草・芝草の種子などを研究開発、生産、販売をするタキイ種苗株式会社という企業で、技術(研究)系の一般職という立場で植物の交配作業に従事しています。同じ植物を扱う分野ですが、大学での研究は野生植物でしたから、人が種をまき、育て、作り上げる植物は私にとってはやったことのない領域でした。普通なら不安に感じるかもしれませんが「なんだかそれもおもしろい」と入社を決めました。自生植物ばかり研究してきた私でしたので、入社直後は予想どおりわからないことだらけでしたが、先輩や上司



の指導のおかげで、入社3年目の今は知識や技術向上など成長できたと感じています。種一つに未来の可能性があるということがわかり、すごいと思いました。同じ仕事をするなら、楽しいほうがいいと思います。もちろん、うまくいかない時もありますし、落ち込む時もあります。それも経験とポジティブにとらえて、次のステップに進むように心がけています。

出勤日のある1日

- 朝** 6時起床8時出勤。研究用の畑で育つ植物の育成進捗具合を調査
- 昼** 昼食後はさらに新品種の開発を推し進めます
- 夜** 帰宅は毎日19時すぎ。猫のおはぎと一緒に、ほっこりテレビタイム

上司・同僚から一言

田中美澄枝さんは、「新品種の育成」という研究農場のミッションをスタッフ職として補助的に支えてくれています。その業務範囲は交配業務、種子関連業務、調査におけるデータ採取から分析・整理まで多岐にわたり、我々リーダーが大いに頼りにしている存在です。「補助的に」とはいうものの、その働きぶりは決して「指示待ち」ではありません。自らのアイデア・工夫により、常に業務の効率化を意識しており、我々が尻を叩かれる場面も少なくありません。今年からは農場外への出張もあり、さらに業務の幅が広がりましたが、前向きに取り組んでくれています。私としては田中さんの今後のさらなる活躍と成長を期待しているところです。』

将来の夢

新しい種を開発したい

たとえば、「雨風に強い野菜を作りたい!」という課題に基礎研究は欠かせません。タキイ種苗(株)は植物の種一つを丁寧に研究することにこだわっています。これからも、基礎研究へのこだわりにも深く関わり、さまざまな交配の研究かつ安全な品質管理を担うことにより、自分たちが開発した「新しい種」という一つの商品化につなげていくことが、私が自分に託したミッションです。



高校生のみなさんへ。 *message to you!*

進路選択を控えた高校生のみなさんに私が伝えたいことは、ただ一つ。「好きなものを大事にしてほしい」ということです。何事も楽しくないと続きません。私は高校時代、漠然とながら植物に興味を持っていましたが、森林科学科で多くの知識を学んだことで、単なる興味を自分の強みへと変えることができました。ぜひ、みなさんも今のうちに自分の好きなもの＝興味を見つけて、それを大事に深めていってほしいと思います。

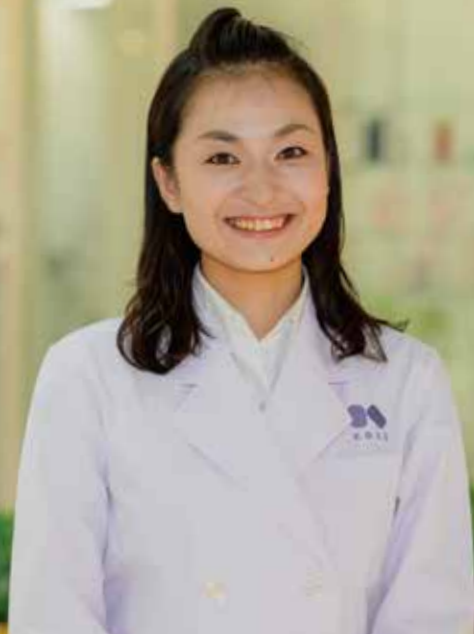
高校時代のある1日

- 朝** 前日に予習復習をしておいたぶん、授業がよく理解でき集中力アップ
- 昼** 勉強後、空腹の昼ごはんは格別!! 放課後はソフトテニス部の練習に参加
- 夜** 夕食後、テレビを観てほっこり…の後は、しっかり予習復習で明日に備えます

大学時代のある1日

- 朝** 滋賀県から2時間かけて登校だったので現役時代は毎朝早起き
- 昼** ウィンドサーフィン部の練習がある日は、琵琶湖へGO!
- 夜** 飲食店、家庭教師に塾講師など、アルバイトは多々トライ!!





PERSON-10

平井 美帆 HIRAI Miho

薬学部薬学科 卒業
愛知県立旭丘高等学校 出身
株式会社コーセー 研究員

京大の魅力は研究だけじゃない 学んだことの全てが私の中に生きている

部活と勉強で充実した高校時代。 大学でも自由でありたい

私が通っていた高校は、東大や京大をはじめとする難関校への合格者を多数輩出する進学校です。しかし、特別に校則が厳しいというわけではなく、愛知県で唯一の私服で通える学校でした。部活動は全員参加制で、私はバスケットボール部に入部しそこでの活動が高校生活の中心となりました。朝練をはじめ昼休みはシュート練習、放課後はもちろん部活で休日は試合と、バスケットボールに明け暮れる日々を楽しんでいました。

京大を目指し始めたのは、高校2年生の頃です。志望動機は複数あ

りますが、校風が生徒の自由を尊重する高校だったため、大学も自主性を重んじる所に行きたいと思ったことが一番の理由です。当時、京都に憧れを抱いていたこともあり、京大は私にぴったりだと思いました。



明確な目標が決まったことで、受験勉強に力を入れようと奮起しましたが、一度始めたことは最後までやり遂げたいという思いも強く、部活動も高校3年生の春まで継続しました。両立は大変でしたが、「どこもやりたい」と前向きに取り組んだことを今でも覚えています。

面白い人たちと出会えたことが、 京大で築いた私の財産

高校生の頃に得意だった科目は数学です。白黒がはっきりしており、明確な答えが出せるところが面白いと感じていました。実は、私がそういった理系的な思考を持ち合わせていると自覚したのは幼少の時で、中学生の頃にはそれを活かせると思う研究職、中でも化粧品を開発する研究員になりたいという、漠然とした夢を抱いていました。薬学部を選んだのは、その夢を叶えたいという強い気持ちがあったからです。また、薬剤師の資格を取得しておけば、将来予期せぬことが起こったとしても心強い、という思いもありました。

そしていざ入学してみると、思い描いていたとおりの授業や自由なコミュニティ、環境がありました。京大には賢いうえにユーモアを備えている人や、一般の常識からは想像がつかないアイデアを持っている人

わたしの

こうやって勉強しました。

学	生
時	代

高校入試の場合は、学校ごとの出題傾向にそれほど差異はないと思いますが、大学入試の場合はそれが顕著に異なります。そのため、私はとにかく志望校の出題傾向を掴むことが大切だと考え、過去問がまとめられた問題集、いわゆる「赤本」をひたすらやり込みました。現在はどうなっているのか分かりませんが、当時、京大は化

学の問題がすごく特徴的で、穴埋め問題の最初の方が分からなければ、その後の問題が全然解けないような設問形式になっていたと記憶しています。そのため、苦手な科目というわけではありませんでしたが、化学は特にやり込んだことを覚えています。

など、今まで出会わなかったような面白い人達が多数在籍しています。私は男子ラグロス部のマネージャーとして活動していましたが、学部に加え、部活でも魅力ある方々と出会うことができたのは、大きな財産になったと感じています。

社会人の基礎も学べた研究室。 いつしか憧れは目標に進化

一方、研究室では、伊藤美千穂准教授のもと、生薬・薬用植物に関する全般を対象とした「薬品資源学」を修めました。念願だった研究はとても面白く刺激的でしたが、ここで学ばせていただいたのは、単なる技術や知識ではありません。先生からは、仕事に対する姿勢や礼儀作法を厳しく教えていただき、また、ディスカッションをする機会を多く得たことで、感情に流されない論理的思考力を身につけることができました。社会人となった今、それらがいかに大切かということを痛感しています。

私が勤めているコーセーは、就職活動を始めた大学5回生の夏にお世話になったインターンシップ先の一つでした。化粧品を開発する研究員になりたいという子どもの頃に抱いた憧れは、大学生活を送る中でいつしか現実の目標へと変わっており、就職活動は化粧品業界に絞って進めました。いろいろな企業のインターンシップに訪れ、社員の方々のお話を伺った中で、一番強く惹かれたのが今の会社でした。ここなら「仕事が楽しいと言える社会人になれる」と思ったのです。

「特別」な製品を作るため、 一つずつステップアップ

コーセーは基本理念に「英知と感性を融合し、独自の美しい価値と文化を創造する」と掲げており、その高い研究開発力は業界の内外から認められるところです。インターンシップで訪れた時、先輩方が自負を持って生き生きと働いている姿がとても印象的で、私もぜひその一員になりたいと考えました。

現在、私はメイク製品を開発する部署に所属し、主に口紅の製品開発を担当しています。今後発売予定の製品を創りだす一端を担うとともに、将来、画期的な商品に繋がるような基礎的な研究も行っています。日常的に化粧をされる方なら共感していただけると思うのですが、お気に入りの化粧品にはメンタルをケアする力があると考えています。私自身、気合を入れたい時や嫌なことを払拭したい時に、必ずつける口紅があります。今手掛けている製品が、誰かの「特別」になれたらすごく幸せだと思います。まだ入社したばかりなので、覚えることがたくさんあり慌ただしい毎日ですが、夢が叶った今、とてもやりがいを感じています。まずは業務を一つずつ噛み砕いて吸収し、余裕をもって仕事に当たれるようになることが現在の目標です。



出勤日のある1日

- 朝 9時半頃に出社。近くに住んでいるから通勤は楽チン
- 昼 製品を作ったり会議に出席したり、仕事がいっぱい
- 夜 18時頃に退社。なるべく自炊を心がけています

上司・同僚から一言

メイク製品の開発や研究テーマに積極的に取り組み、毎日新しいことを吸収して丁寧に自分のものとして習得するよう努力する姿に大きく期待しています。



将来の夢

愛される商品を作る

私が携わった商品はまだ世に出ないのですが、それが発売されて、たくさんのお客様に手にとりていただく日を心待ちにしています。今は試行錯誤の段階ではありますが、開発中の口紅を使ってお客様がキレイになった姿を想像するだけで、モチベーションが上がります。世の中に化粧品は数多ありますが、私が携わった商品がどなたのお気に入りになれば最高です。



高校生のみなさんへ。

message to you!

自分の努力を信じてあげてください。私は日々、「自分は絶対に合格する」と言い聞かせながら勉強に臨んでいました。試験当日も模試の判定が良くないまま迎えたのですが、終了後、周囲には「手ごたえがあった」と伝え、自分にも精一杯やったと言い聞かせました。自分を信じないと始まりません。「必ず受かる!」と思いながら、勉強も試験も頑張ってください。

大学時代のある1日

- 朝 9~10時頃に登校したら、その足ですぐ研究室へ
- 昼 お昼休憩は挟みますが、基本的には研究室ですぐと実験
- 夜 飲食店で深夜までアルバイト。着物の制服がお気に入り



PRIME

news

EBC

PERSON-11

名護谷 希慧 NAGOYA Kie

教育学部 教育科学科 卒業
山口県 山口高等学校 出身
テレビ愛媛 報道制作局 アナウンス部

いろいろ挑戦できる今が幸せ 「人が好き」が私のエネルギー

人前に出るのが苦手だけど好き。 それが私の出発点

現在、私はニュース番組でキャスターを務めています。昔は人前で堂々と上手に話すのが苦手、というコンプレックスを抱いていました。実は今も得意ではないのですが、当時は授業でも当てられなくて、できるだけ先生と目を合わせないようにさえていたほどです。そのためか、昔から「人前で話ができる人」に憧れを抱いていました。

最初の転機は中学生の頃です。生徒会に入っていたのですが、文化祭の時に大勢の生徒の前で司会をすることになりました。その時、たったひとりで盛り上がったり、逆に静まり返ったりしたことで、言葉の魅力、人前



で話すことの面白さを感じたのです。「人前に出るのは苦手だけど好き」。そんな矛盾する気持ちを持ったことを覚えています。

高校に入ってから、バドミントン部に所属しながら、文化祭の実行委員を務

めました。1年生の時は先生に割りふられたからでしたが、その活動はとても楽しく、この時に「人が好き。人と関わりたい」という私の根本に気づくことができたように思います。だから2年生の時も、受験を控えた3年生の時も、実行委員会に入ることになりました。

部活や委員会と勉強の両立。 焦りが原動力になった

委員会に部活にと楽しい高校生活を送っていましたが、当然、受験は待つてはくれません。私が京大を志望するようになったのは高校2年生の頃です。母が京都の大学出身だった影響で、私も京都に住むことを希望していたのですが、その頃はきちんと調べておらず、今思えば怖いことに「知っている京都の大学＝京大」だったのです。教育学部を選んだ理由は、「人が好き」という私の志向にあっていたから。教育学部は人数が少なく、60人ほどしかいません。そのため、学生同士が仲良く関係が近いという点、それに加えて、人の根幹をなす「教育」という学問の中で心理学が学べるという点に惹かれました。

3年生の夏休みは文化祭の準備をしながら、勉強に励む同級生を横目に見てすごく焦りました。「私は受験勉強をせずに楽しんでいる」。し

わたしの

✎ こうやって勉強しました。

学 生

時 代

“受験のための勉強”ができる人もいますが、私はそれができるタイプではありませんでした。授業を受けたらそれを覚えるという形で取り組んでいたのが、学校のテストはそれなりに好成绩でした。時期にもよりますが、最終的に行っていたのは、過去問や学校で渡された受験の想定問題をひたすら解くことです。午前0時には寝ると決めて、毎日3

～4時間は机の前。後半には、問題を見れば答えがパッと書けるぐらいまで、繰り返し同じ問題集と向き合っていました。時間をかけて繰り返しやって、しっかり寝て定着させる。そんなスタイルで勉強していましたね。塾にも入っていましたが、私は基本的に家派。ほとんど家で勉強して、分からない部分を聞きに行くぐらいの形でした。

かし、私にはそのジレンマを感じる時期があつて良かったのかもしれませんが。別のことをしていたからこそ、勉強も煮詰まることなく全体的な心のバランスが取れ、追い込まれた結果、帰宅してから勉強に集中できたのです。

優等生ポジションから脱却。 学部で刻んだ楽しい思い出

京大に入学して感じた素晴らしい点は、日本を代表する先生方から直接、当たり前のように教えてもらえる環境と、面白い人がいっぱいいることでしょうか。それまでの私は優等生的なポジションで、常に選択肢を狭めないことを心がけていました。だから将来の明確な目標もない反面、苦手科目ありませんでした。しかし、京大では自分で自由に好きなことができます。周りを見れば、皆が思うままにやりたいことをやっていて、私も「肩肘張らずにそのままの自分で頑張ろう」と思えました。振り返れば、本当の意味で自分で判断して選択するということが身についたのは、京大に入ってからかもしれません。

大学時代の一番の思い出は学園祭です。教育学部は事前の情報通り本当に仲が良く、京大の学園祭と同じ日に、毎年勝手に「教育学部祭」というものを開催しています。1回生から4回生、院生まで集まり、ステージを立てて屋台も出し、卒業生も「ココが私の帰る場所!」と、顔を見せに来てくれます。最終日には皆が感涙するほどで、もっと人が好きになりました。濃密な4年間だったと思います。

「ありがとう」が喜び。 興味を持つきっかけになりたい

アナウンサーという職業は、憧れだった人前で話をするということ、そして人と関わりたいという思いが重なった、私の理想の仕事です。テレビ愛媛は局としての規模は小さいですが、その分、企画からアポ取り、取材、原稿の書き起こし、最後に伝えるところまで、トータルで任せてもらえます。さらに携わる一人一人の顔が見える環境なので、大学時代のような仲間との濃密な時間も実感することができます。ご縁が得られて幸せに思いますし、すごくやりがいを感じています。

情報で溢れている現代社会においては、インターネットの場合、自分で知りたいことを選択してから世界が広がります。しかし、テレビの場合は、電源をつければ関心のないことでも



目や耳に飛び込んでくるため、そこで新しいものを知ったり、興味を持つきっかけになったりすることがあると思います。テレビの仕事を志したのは、その「きっかけ」の部分になれたら面白いだろうな、というのが一つの理由です。感想や問い合わせが寄せられたり、取材した方から「伝えてくれてありがとう」と言われたりした時が、今、一番嬉しいです。

出勤日のある1日

- 朝** 出社→発声練習
取材、出社時間はまちまち。10時前後が多いですが早朝も。
13時10分 ニュース打ち合わせ
17時12分 EBCプライムニュース1部(17時頃スタジオ入り)
17時30分 ニュース準備
18時14分 EBCプライムニュース2部(10分頃スタジオ入り)
- 昼**
- 夜** ニュース終了後反省会。
20時帰宅。取材の準備等あれば遅くなります

上司・同僚から一言

●堀本直克(テレビ愛媛 報道制作局 アナウンス部長・アナウンサー)

名護谷さんは芯が強く、自分のスタンスがブレない。だから1年目の2月からニュースキャスターに抜擢しました。彼女の得意技は、初対面の人から端的にいい言葉を引き出してくること。それはきっと、人にすごく興味を持っているからだと思います。



将来の夢

より届く言葉を選ぶ

その時々によさしい言葉を紡ぐ人間になる、というのが私の目標です。

これから結婚したり、やがて母親になったりしたら、きっと今と考え方も変わると思います。その中で、同じ立場の人により届く発信をしていきたいですし、そのために適切な言葉の選び方をしていきたいですね。だからまずはいろんなものに対してアンテナを張って見識を深めること! どんどん挑戦しながら経験値を積んでいきたいと思っています。



高校生のみなさんへ。

message to you!

今を楽しんでください。高校と大学では経験できることが違います。高校生活が受験勉強一色になって、あとあと後悔するのはもったいないと思います。楽しいことはしながら、勉強もトコトコ一生懸命やってください。大変だと思いますが、それも今だけ、高校生の時にしかできないことです。京大は楽しい大学です。絶対にやるだけの価値はあります。

高校時代のある1日

- 朝** 7時半起床。
8時25分に登校。
- 昼** 15時25分まで授業。
そのあと、部活or文化祭実行委員会
- 夜** 18時頃から課外授業(学校で受験対策)or塾
20時に帰宅し夕食。21時から勉強、24時に就寝



